



町のわだい

今月の題字 高橋 大洋^{たいよう}くん (船越小4年)



青少年の家「海釣り道場」に61人 親子らが大物のアタリに歓声

陸中海岸青少年の家(佐々木賢治^{けんじ}所長)が主催する「海釣り道場」が5月1日から2日にかけて船越漁港周辺で開かれました。船釣りと堤防釣りを体験できるこの企画には町内外から61人が入門し、親子で楽しむ姿が見られました。初日夕方からの堤防釣りでは、指導員がエサの付け方や魚をおびき寄せるコツを伝授すると大物を狙い仕掛けを投入。その後アイナメやクロソイなどを釣り上げては歓声を上げていました。宮古市から参加した神壮佑君^{すけ}(8歳)は「アタリがなく諦めかけていたけど、最後に強い引きがきました」と大物を手に興奮気味でした。

織笠川でさけ稚魚の放流会 「大きくなって帰ってきてね」

「大きくなって帰ってきてね」——。4月23日、織笠川では「さけ稚魚放流会」が開かれ、船越小学校(多田^{つよし}校長、児童83人)の2・3年生26人が約5千匹のさけ稚魚を放流しました。放流された稚魚の一部は、児童たちがこの日のために校内で大切に育てたもので、体長6センチほどの稚魚が手元から放たれると、元気に泳ぎだす姿を見守っていました。子どもたちに地元漁業への理解を深めてもらおうと町漁業就業者育成協議会(生駒利治^{としはる}会長)が毎年開いている同放流会。今年も町内の各小学校が参加し、総勢104人が約15,000匹を放流しました。



山田猟友会のクレー射撃大会 会員20人が銃の腕前を競う

パーンパーンと大きな銃声が静寂を切り裂きます。5月16日、山田猟友会(新保公鶴^{ひびたづ}会長)などが主催する「第26回町長杯争奪事故防止安全狩猟射撃大会」が宮古市指定射撃場で開かれ、会員20人が銃の腕前を競いました。競技は、野鳥などの動きを真似て放たれる直径11センチの素焼き皿を散弾銃で撃ち壊すもので高い集中力と鋭い反射神経が必要です。県や町から委託を受けクマなどの有害鳥獣駆除を行う同会では、昨年度は被害情報が多発するクマ14頭を駆除。「人や農作物を守るためにも大会を通じ会員の射撃技術を高めたい」と話しています。